

# 病院だより

vol.304

2026年1月

TAKE  
FREE

## 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

日頃より当院の運営に温かいご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

皆さまにとって、この一年が健やかで穏やかな日々となりますようお祈りいたします。

さて、昨今、全国的に「病院の赤字」が取り上げられ、医療を取り巻く厳しい環境が注目されています。当院も例外ではなく、地域の患者さんに必要な医療を提供し続けるため、限られた人員と資源の中で日々の工夫を重ねているところです。しかし、こうした状況が報じられることで、不安なお気持ちを抱かれた方もおられるかもしれません。

このような課題に対応するため、本年、国による診療報酬改定が予定されています。医療を支える仕組みが見直され、地域医療を守る方向へ進むことが期待されており、私たちもその動向を注視しながら、より効率的で質の高い医療を提供できるよう準備を進めています。

とはいっても、当院が大切にしているのは、どのような状況であっても患者さん一人ひとりに寄り添い、

安心して受診いただける医療を守ることです。医療の“明日”を悲観するのではなく、地域の皆さまとともにによりよい方向へ進んでいきたいと考えています。

本年も、職員一同、笑顔と思いやりを忘れず、皆さまの健康を支えるため力を尽くしてまいります。どうぞ変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。



理念

基本方針

1.信頼される病院 2.心温まる病院 3.楽しく働ける病院

- 地域における医療福祉の向上につとめ、地域住民のいのちと健康を守ります。
- 地域の中核病院として、地域の医療機関と連携・協調を図ります。
- 二次医療を中心に担当します。
- 医療需要の増大と多様化に対応できる病院づくりを目指します。
- 超高齢社会における治す医療と支える医療の両立を目指します。

山陰初!  
産婦人科  
新機材導入

# 細径子宮鏡を導入しました!

診療部部長(産婦人科) 長治 誠

## 子宮鏡手術とは?

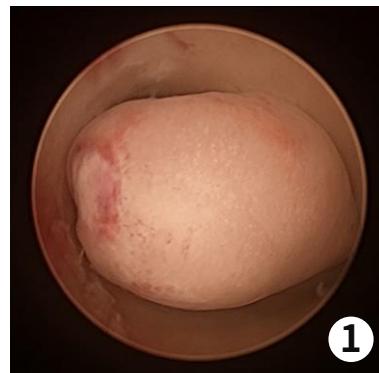
子宮鏡手術とは、不正性器出血や過多月経、不妊症の原因となる子宮内膜ポリープや粘膜下子宮筋腫に対して、お腹を切らずに切除できる低侵襲な術式です。子宮の入り口から子宮鏡という細い内視鏡を挿入し、子宮内の病変を直接モニターで確認しながら切除することができます。

## 導入機器の紹介

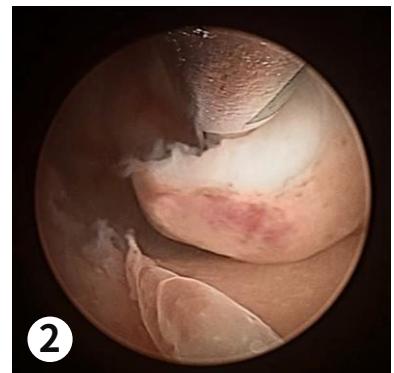
当院では、2025年7月にHologic®社の「Omni™ ヒステロスコープ」という太さが非常に細い硬性子宮鏡を導入しました。径の太さが3~6mmと細いため、患者さんへの負担軽減が期待できます。この機器に「MyoSure™ ティッシュリムーバルシステム」という病変を切除する機器を組み合わせて手術を行います。従来のものと違い、電気メスを用いない非通電性のため、子宮内膜への熱損傷がなく、子宮の機能を温存しながら治療することができます。

今回導入した機器を用いることで組織の切除と回収が容易となり、短時間で手術を終えることができます。また、これらの機器を使用した手術は、保険適用の対象となります。

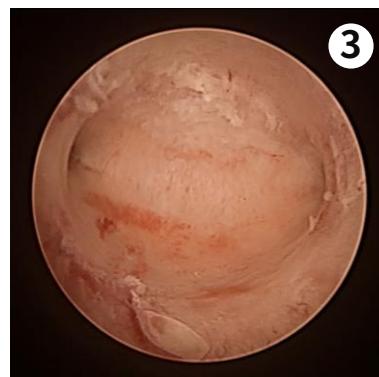
場合によっては手術が難しいこともありますので、細径子宮鏡による手術が可能かどうかは、当院産婦人科外来までご相談ください。



子宮鏡で見た子宮内の腫瘍



腫瘍を切除している様子  
カメラ上部に写っている銀色の部分が  
切除する機器



手術後の子宮内の様子

切除中の動画を  
当院HPで  
公開しています  
ピックアップ「細径子宮鏡」



Hologic® Omni™  
ヒステロスコープ

Hologic® MyoSure™  
ティッシュリムーバルシステム

組み合わせて使用

# 院内感染防止対策研修会を行いました

## 高齢者のRSウイルス感染症～本当は怖いRSのはなし～



当院では、安全で適切な医療を提供できる体制の維持・向上を目的に、全職員を対象とした感染防止対策研修会を毎年行っています。

RSウイルス感染症は、乳幼児の重症感染症としてとらえられてきましたが、実は年齢を問わず高齢者や基礎疾患をもつ成人にとっても感染防止対策上重要な疾患です。そこで、小児科小林医師が講師となり、RSウイルスの怖さ、適切な予防について、研修会を開催しました。

RSウイルス感染症の初期症状は、発熱・咳・鼻汁といった普通の風邪症状とほぼ同様で、多くの人は軽症で済みます。しかし、高齢者や基礎疾患を持っている人は、気管支炎・肺炎に進展することがあり、重症化すると長期入院を要したり長期的に予後が悪くなったりするため、怖い感染症であると説明しました。

また、当院の過去の感染拡大事例も紹介され、感染しない・させないためにもアルコール手指消毒やマスク装着などの感染防止対策を、職員はもちろん、患者さんにも実施していただくことの重要さを改めて認識しました。このような研修を定期的に行うことで、職員全員が感染対策意識をもち、安全な医療を継続して提供できるよう努めてまいります。



RSウイルス感染症	インフルエンザ
平均年齢	75歳
平均入院日数	30.0日
肺炎合併	31-42%
30日以内の死亡率	8-9%
発症12ヶ月後の生存率	74.2%
人工呼吸器使用率	11-13%
	75歳
	15.2日
	30-36%
	7-8%
	81.2%
	6-10%

IASR Vol.35 p146-147 2014年6月号より一部改変  
インフルエンザと比較  
成人の入院患者において  
・入院日数はインフルエンザのほぼ倍  
・30日以内の死亡率は同等  
しかし発症12か月後についてはRSウイルスのほうが予後が悪い  
★RSウイルス感染症は、インフルエンザよりも負荷の大きい疾患である！

## 高校生パフォーマンスイベント 書道パフォーマンス・お琴演奏会を行いました

令和7年12月20日(土)、当院にて入院患者の皆さんを対象に鳥取東高等学校の邦楽部による琴演奏と書道部による書道パフォーマンスが行われました。

琴演奏では、若い奏者たちが心を込めて奏でる美しい音色をお楽しみいただき、伝統的な曲から現代的なアレンジまで、多彩なプログラムで会場を魅了しました。また、書道パフォーマンスでは、情熱的な筆運びとダイナミックな動きで、巨大な紙に力強く文字を描き出しました。観客の皆さんも、その迫力と美しさに引き込まれ、文化の深さと若い世代の感性を感じていただけたことと思います。

今回、書道パフォーマンスで制作した書は、当院エントランスに期間限定(終了日未定)で展示いたします。当院にお越しの際は、ぜひご覧ください。

